

育成 モノづくり人材

Vol. 37

栃木県立 栃木工業高校

栃木県南部にある栃木市で50年超の歴史を持つ栃木県立栃木工業高校は、「空飛ぶ車いす活動」など現場主義



湯澤校長

のモノづくりと福祉教育に力を入れている。「空飛ぶ車いす」は、現地の車いすの不具合も工具やヤスリなどで直す。修理・再生し、海外に送るなどを使って直す。送り届ける全国プロジェクト。同校はその先でステップやシートを駆けて、過去25年間で微調整し引き渡す。感

【DATA】▷校長—湯澤修一氏
▷所在地—栃木市▷学科構成—機械科、電気科、電子科、情報技術科▷総定員—600人▷主要設備—マシニングセンター、CNC（コンピューター数値制御）旋盤、3次元CADシステム、3次元プリンターなど▷主な進路—ファナック、古河機械金属、日産自動車、花王、キヤノン、東光高岳、東プレ、GKNドライブラインジャパン、宇都宮大学、足利工業大学など

もらおうと、栃木市内で開かれるイベントにも参加。同校の近くにある県立栃木特別支援学校との交流活動も地道に続け

自主性磨く「空飛ぶ車いす」

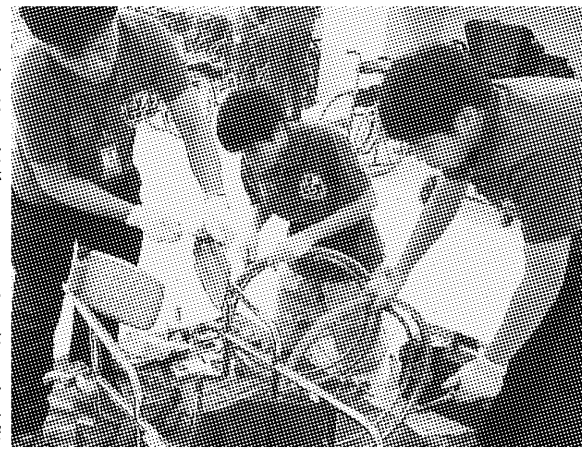
その数は累計2011台に上る。4割はタイ向けで、現地在年1回、十数人の生徒たちが訪問している。持参する車いすは学校で分解して錆を落とし、タイヤ交換まで済

激する相手に、自校では1年生に車いすを教

の分解、組み立てを教える。2016年度に選ばれた生徒たちは、12月中旬にタイ南部の

「自信をつけて帰国したわが子に驚く保護者はいない」と湯澤校長は語る。同トを地元住民に知って

同校が目下、取り組むのが「自主性の尊重」だ。何事もやらされるのではなく、主体的に成長させたいと湯澤校長は語る。同トを地元住民に知って



生徒らがタイを訪問し、現地で車いすを修理する

は2年連続で「全国ロボット競技大会」に出場しており、今後は入賞、優勝を狙う。

15年度に同校を卒業した193人のうち約7割は就職し、約3割が進学した。県内には自動車や産業機械などの関連企業が集積しており、これら業種に進む生徒が多い。

モノづくりを取り巻く環境が変化する中、湯澤校長は「他者への思いやりを大切に教える校訓『和顔愛語』の精神は、重要性を増している」と強調す

けを与え、生徒がその気になるまで、いかに待つかが教師の勝負」と湯澤校長は話す。ロボットに関する教育も注目される。栃木県はロボット産業の創出・育成を図っており、校長。ロボット研究部

（栃木支局長・山中久仁昭）
（金曜日掲載）